

---

## 「NPO オープンソース実証実験から」

---

**会場:** オープンソースカンファレンス 2010 [Kansai@Kobe](mailto:Kansai@Kobe)

**日時:** 2010-03-13 (土) 13:00-13:45

**タイトル:** 「NPO オープンソース実証実験」から

**講師:** 緒方和也 / 大橋 和美

**担当:** ひょうごんテック

**内容:** ひょうごんテックが実施した「NPOの団体運営におけるオープンソース・ソフトウェア活用の実証実験」の紹介です。初心者対象のOSS普及の問題点や体験などをお話します。OSSの普及に関心のあるコミュニティの方、導入を考えているNPO関係者の方、意見交換しませんか。

---

## アウトライン

---

I. ひょうごんテックの簡単な紹介.....	2
1) 私たちは.....	2
2) ひょうごんテックの簡単な紹介.....	2
3) ひょうごんテックの始まり、そして現在.....	2
II. OSS 実証実験のきっかけとなったこと.....	3
1) 在住外国人に対する IT 講座.....	3
2) NPO の IT 活用状況調査.....	3
3) NPO はパソコン使用でどんな問題を抱えているか.....	3
III. NPO オープンソース実証実験.....	4
1) Linux パソコンに魅力を感じた点.....	4
2) 実証実験準備.....	5
3) 協力団体の紹介.....	6
4) 実証実験中の問題点など.....	6
IV. 実証実験を終えて.....	6
1) 実証実験のまとめ.....	6
2) オープンソース関係の人たちと共に.....	7
3) 今のひょうごんテック.....	7
4) これからのひょうごんテック.....	8
V. 質疑応答.....	8

---

## シナリオ

---

### 1. ひょうごんテックの簡単な紹介

#### スライド1(表紙)

1) 私たちは・・  
緒・大:(あいさつ・自己紹介)

#### スライド2(概要)

緒:「今日のプレゼンテーションの流れです。最後に質問の時間があります。」

2) ひょうごんテックの簡単な紹介。

#### スライド3(ひょうごんテックの簡単な紹介)

大:「私たちがどういう団体かということからお話します。」  
緒:ひとことでは、NPO 活動・市民活動団体を ICT の面からサポートするネットワーク。  
そして「たかとりコミュニティセンター」のメンバー。

#### スライド4(たかとりコミュニティセンター)

- ・ たかとりコミュニティセンターは、多文化共生を目指す NPO/NGO の拠点。ここには、言葉、文化、民族、国籍などが違っていても、いっしょに何かを創造して行こうという雰囲気がある。
- ・ FMYY もこの「たかとりコミュニティセンター」から放送している。

3) ひょうごんテックの始まり、そして現在。

#### スライド5(ひょうごんテックの始まり)

大:「すこし遡って、ひょうごんテックの始まりからお話します。」  
緒:団体が設立された 2004 年からほぼ 4 年間に亘って、助成金を受けて、NPO 団体などに対して、リユースパソコンの配布、パソコン・ネットワークの導入や保守などの支援を行ってきた。  
・そして、2007 年は最後の事業として兵庫県から助成金を受け、『NPO オープンソース実証実験』を行った。

#### スライド6(そして現在)

- ・ 2008 年より世話人会を中心としたネットワークとして活動している。  
主な活動は従来からある「テックメーリングリスト」と、2009 年より始まった「テックカフェ」。
- ・ 『NPO オープンソースの実証実験』以来、NPO 関係の人と共に、オープンソース関係の人たちもテックに深く関わっている。

## II. OSS 実証実験のきっかけとなったこと

### スライド7(OSS 実証実験のきっかけとなったこと)

#### 1) 在住外国人に対する IT 講座

緒:「最初に、この実証実験のきっかけとなった2つのプロジェクトについて説明します。」

大:在住外国人に対する IT 講座で、。マイクロソフト株式会社支援する『UPプログラム』というプロジェクトの一環として行ったものです。スペイン語講座では Gimp を使った。

緒:私は主にスペイン語や英語の Windows の設定を行った。

- ・ TCC には MUI の PC があるが、通常、英語バージョンの Windows を入手することは困難。
- ・ 多言語版の Windows は非常に高価。ベトナム語やタガログ語、モンゴル語の Windows はない。言語の使用人口が少ないと商品化されない。
- ・ 量販店で買うパソコンに日本語以外の OS をインストールをすると、サポートが受けられない。

#### 2) NPO の IT 活用状況調査

緒:この実証実験をする1年前に、私たちはNPOはどんなIT状況なのか、ということ进行调查した。

「この調査について大橋さんから話してもらいます」

大:最終的には県全体を調査する予定だったが、TCCと関連団体のみで終わっている。

- ・ 簡単にいうと次のようなことがわかった。  
ほとんどの団体でパソコンネットワークは必要不可欠。  
パソコンに詳しい人がいる団体以外では運用に支障をきたすことが多い。

#### 3) NPO はパソコン使用でどんな問題を抱えているか

### スライド8(NPO はパソコン使用でどんな問題を抱えているか 1)

大:NPOはお金がない、ITにお金をかけない習慣ができてしまっている。

- ・ PCに詳しい人に作業が集中して負担になっている。
- ・ スタッフの交代が激しい。
- ・ ITへの理解がない人がいるとやりにくいことがある。
- ・ 自己流でやっている。

### スライド9(NPO はパソコン使用でどんな問題を抱えているか 2)

緒:「動きが遅いという不満を持つ人が多いです。」

- ・ 動きが遅い原因  
製造が古くメモリ搭載量が少ないパソコン。  
ハードディスクの容量一杯にインストールされたソフトウェア。  
不要なプリンタなどの常駐ソフト。
- ・ ときどきフリーズする原因の一つとして、取り扱いの不備  
パソコンの冷却ファンがほこりで一杯。

緒:「ソフトウェアの問題も多くあるように思います。」

- ・ 期限の切れたウイルス対応ソフト。
- ・ ソフトウェアのライセンスやインストールメディアの問題。  
中古の場合ほとんどメディア付属しない。  
新規購入でも付属品が管理されていない場合が多い。  
購入担当者が退職して事情がわからない場合も多い。
- ・ 中古を使っている場合、PC やソフトウェアを購入するという経験がない。
- ・ NPO では、ここに来て初めて PC を使い始めた人もかなりいる(介護事業所など)。

#### スライド 10(オープンソースは使えるだろうか)

緒:場所にもよるが、パソコン担当者は大変な苦勞を強いられている。

大:NPO の IT 担当者の負担を軽減するといった視点からいくつか事業を計画した。

その中のひとつが、Linux パソコンを NPO で使ってみるということ。

緒:ホームページとメーリングリストで協力団体を呼びかけた。

- ・ 「『無料で使える Linux や OpenOffice.org が、NPO の現場でどの程度使用できるのか、どのような業務で使用すれば効率的なのかを検証する。』というのが目的です。」
- ・ <http://tcc117.org/hyogontech/archives/97.html>

### III. NPO オープンソース実証実験

#### 1) Linux パソコンに魅力を感じた点。

#### スライド 11 (Linux パソコンに魅力を感じた点。)

緒:Ubuntu は魅力的だった。NPO 向きだと思った。

Ubuntu の意味は「他者への思いやり」

「すべての人類をつなげる普遍的な分かちあいの絆をしんじること」

- ・ 古いパソコンでも軽快に動くと思った。  
状況にもよるが、通常 Ubuntu6 より Windows XP の方がはるかにパフォーマンスが良い。
- ・ Windows を使用する上での問題点がかなり解消されるように思えた。
- ・ 新しい Office の使いにくさから、リユースパソコンに Ubuntu の導入を依頼されたことがある。

#### スライド 12 (Windows より Linux がすぐれていると思えた点)

大:「Windows よりすぐれた点をもう少し詳しくはなして下さい。」

緒:トラブル時の対応として。

- ・ メンテナンスが容易  
緊急の場合、CDROM で起動し LAN やインターネットに接続できる。  
最悪の場合の再インストールが比較的容易。  
用途に応じて各バージョンの OS がインターネットからダウンロード可能。  
関連するソフトウェアのアップデートを一度に行ってくれる。
- ・ マルウェア(ウイルス)対策  
現時点ではマルウェアなどにそれほど神経質にならなくてもよい。
- ・ ソフトウェアのライセンスの管理に神経を使わなくてよい。

- ・多言語化が可能  
アジアの言語インターフェースで起動できるのは非常に有用。  
TCCでは在住外国人や留学生も多い。Linuxを知らないアジアの人に紹介している。

大:使う前の印象。

- ・最初は、説明されても全く理解できなかった。実験の人柱になるという意識だけ。

## 2) 実証実験準備

### スライド13(実証実験準備1)

緒:ハードウェアの調達から始めた。

- ・使ったパソコン  
2001年製造のデスクトップパソコン。  
Windows2000がインストールされていたもの。
- ・反省点  
ノートパソコンがあればもっとよかった。  
使用感をよくする為に、もう少し高性能なパソコンでやるべきだった。
- ・カスタマイズした点  
OpenOffice.orgの初期設定、Wordの初期設定に近いようにテンプレート作成。  
神戸の現状に合わせて10言語を追加インストール。  
ラテン語入力のためのキーボード設定。  
(現在のUbuntuでは多言語入力の設定などは特に必要ない)
- ・追加した言語は、日本語、英語の他に、ベトナム語、タイ語、スペイン語  
ポルトガル語、韓国、中国、タガログ、インドネシア語。
- ・サーバの設置  
ハードディスクは新規購入。  
サーバ用途ならこのスペックで十分。  
本体トラブルのために予備を用意。現在でも稼働中。
- ・スタッフの大橋さんのWindows MEパソコンの調子が悪いということからUbuntu化。

### スライド14(実証実験準備2)

大:自宅で使って見た経験から。

- ・それまでまったく見たことも聞いたこともないOSSを使うことになった。
- ・それまで慣れてきたWindowsの使い方が通用しない、というのはしんどい。実験だから続けられた。
- ・使う前にある程度納得できないと、使い続けることは難しいと感じた。

緒:デスクトップは8台。ハードディスクをコピーして同じ環境を作った。

- ・NPO等、7団体に協力してもらった。
- ・現地では、プリンタの設定・共有ドライブ設定など。
- ・基本動作上では、大きなトラブルはなかった。

### 3) 協力団体の紹介

スライド 15,16,17,18,19(協力団体:リーフグリーン~シンフォニー)

緒・大:(スライドをみながら、各団体を紹介)

緒:「大橋さんからみた各団体の使用状況はどうでしたか。」

大:「実証実験中は、緒方さんが丁寧にフォローしていたから使ってくれていたと思う。」

- ・ IT 担当者は協力してくれても、慣れないソフトを使うのを嫌がるスタッフもいた。
- ・ Linux を知ってるひとは「使いやすい」というが、IT に苦手なスタッフは嫌がる。
- ・ 逆に初めて使う人は意外にスムーズに使っていた、という印象。

### 4) 実証実験中の問題点など

スライド 20(実証実験中の問題点)

緒:「大橋さんにアンケートを集計してもらったわけですが・・。」

大:現状では、MS-Office との併用は避けられない。ここがネック。

- ・ Writer は使えても、Calc が使いにくいと、結局受け入れてもらえないようなところがる。
- ・ 起動や読み込みに時間がかかるのでまず嫌がられるところがあった。
- ・ 実験では、中古機を使ったので、そこから発生する問題があった。

緒:「起動が遅いとか、場所を取るとか、画面が貧弱といったところですね。」

緒:サーバに関して、市販のネットワークディスクより管理の面ですぐれている。

Web 開発をしている所では、テスト用サーバとして使える。

緒:報告書作成で OpenOffice.org を使った。OpenOffice.org の Writer には感銘を受けた。

44 頁の冊子だが作るのがとても楽しかった。ページ、段落、文字、というレベルでの書式設定の扱い方が優れている。

## IV. 実証実験を終えて

### 1) 実証実験のまとめ

スライド 21(実証実験を終えて)

大:ブラウザとメール、簡単な文書作成については NPO の現場で使っていける。

- ・ これは、オープンソースだから、というわけではなく、パソコン、イコール MS 製品だったのが、少ずつ変わってきているからだと思う。
- ・ ただし、一例として説明していけば、OSS への理解の一助になる。
- ・ OOo などは、意外に初心者の方が抵抗なく使っているのは目にする。
- ・ 無料だ、というだけでは続かないだろう、というのが実感。

スライド 22(サポートした側からの感想)

緒:「私からの感想は・・」

- ・ 良かった点は  
プリンタなどの接続性の問題は少ない。  
初心者の方がむしろ抵抗なく使える。

- ・ 注意すべき点は  
Linuxを事務処理に使う場合、ある程度 CPU 能力のあるパソコンが必要。  
特に Writer で画像などを扱うときには、そうである。

緒:「OpenOffice.org について・・・」

- ・ レイアウトの崩れは仕方がない。文書の書式設定などである程度カバーできる。  
同じバージョンでも Windows と Linux では同様に表示されない。  
同じ Linux でも OpenOffice.org のバージョンによって同じに表示されない。
- ・ Windows 版の doc 形式や xls 形式への互換性にこだわらない方がよい。  
共有、公開するときには、pdf で保存すればよいこと。  
個人的には、ファイル変換の機能を OpenOffice.org の機能から分離した方がよいと思う。

#### スライド 23(初心者が OSS を使ってみると)

大:「私から見た感想は・・・」

- ・ ネットで検索しても、なかなかほしい情報にたどり着かなかつたり、情報が最新のものではなかつたり、初心者には理解が難しい。
- ・ ディストリビューションによる違いなど、サポートなしで使い続けるのは難しい。
- ・ 無料だから、ということで使い始めた人は、OSS コミュニティの存在を知らない。
- ・ コミュニティに、なんらかの形で関わることもセットで伝えないと。

緒:「トラブル等のフィードバックについて・・・」

- ・ トラブル等のフィードバックは一般ユーザでは困難。仲介者が必要と思う。
- ・ NPO 等に導入する場合にはサポート(他の組織からの援助)が不可欠。無償では責任あるサポートは困難だろう。

### 2) オープンソース関係の人たちと共に

#### スライド 24(オープンソース関係の人たちと共に)

緒:「大橋さん、何度もオープンソースの集まりに行っていますが・・・」

大:「私はこの実証実験で OSS に関わりを持ったおかげで、最初からコミュニティの人にサポートしてもらえました。」

- ・ OSS のコミュニティで話されていることは、ほとんど理解できないけれど、その心意気にとても魅力を感じた。
- ・ それが一番自分で OSS を使い続けよう、普及させたい、という原動力になっている。
- ・ コミュニティと初心者をもっと近づけたい、という思いを、フォーラムなどで発表している。

### 3) 今のひょうごんテック

#### スライド 25(今のひょうごんテック)

大:2007 年度を限りに事業所としてのひょうごんテックは廃止され、これで終わりにする か、新しい形でひょうごんテックを再出発するかという選択になった。

緒:新しい形になったとき、金銭的援助に依存するのではなく自分たちでやっていくために新しいひょうごんテックの方針を決めた(会則のスライド)。

- ・ 基本は、事務処理と経費は最小限にする。責任の所在は世話人会において、上下関係のないフリーでフラットな集まりにということ。
- ・ ここに至るまでオープンソースのあり方から学んだものが多い。

大: 現在の世話人は、NPO 関係とオープンソース関係の人たちの比率がほぼ半分半分。  
これが今のひょうごんテックの活動の原動力。

#### 4) これからのひょうごんテック

##### スライド26(これからのひょうごんテック)

緒: この発表から逃げられないと観念したとき、また何台か Linux をセットアップして使っている。実証実験の時より格段に進歩しているのを感じる。Impress も、事実上初めて使ったがとまどう所は少ない。

- ・ 今でも TCC の IT のサポートをしているが、こういうのがあればなあと感じる最新の機能を追いかけるより、できるだけ長期に安定して使えるもの。機能を絞った初心者用(高齢者用)のデスクトップ。シンプル携帯のようなもの。
- ・ 軽量デスクトップのパッケージ。旧型 PC 用のもの。旧型 PC でも HD を交換すると現役で使えるものも多い。事務所だけで使うなら、ターミナルサーバという方法もある。
- ・ Linux で動く Word や Excel のビューワ(笑)
- ・ 事務所内のサーバとして。対障害性に優れたサーバ用途(SMB サーバ)パッケージ。サーバミラーリングや自動バックアップなどの設定が容易なもの。
- ・ 顧客管理や会員管理など、団体内で必要とされるソフトウェアなら有償で販売されてもよいと思う。

大: 「その後も、OSS(OOo)を導入した団体を見てきました。」

- ・ 良い導入事例も悪い事例もある。

緒: 世話人会の方針として、今後は NPO 関係者の人たちの参加しやすいテックカフェを目指している。OpenOffice.org や Ubuntu などの少人数の講座も開催する予定。

## V. 質疑応答

##### スライド27(今後のひょうごんテック)

大: 「ということで会場からの質問ありませんでしょうか？」

緒: ブース展示物の説明。

大: 第7回テックカフェの紹介。

以上